

試験および調査に関する国際規格 (ISTI)

2023年版ISTIから2026年版ISTIへの主な変更点の概要

「検査および調査に関する国際基準 (ISTI)」は、検査の配分計画 (選手の所在情報の収集および利用を含む)、選手への通知、検体採取の準備および実施、検体の保安・検査後の管理および文書化、ならびに分析のための検査室への検体輸送に関する必須基準を定めています。さらに、アンチ・ドーピング情報の効率的かつ効果的な収集、評価、利用、ならびにアンチ・ドーピング規則違反の疑いに関する調査の効率的かつ効果的な実施についても、義務的な基準を定めています。

2023年版ISTIの主な変更点の概要は以下の通りです：

附属書D - 静脈血検体の採取

第D.3.1条c)項では、選手から血清用チューブに検体を採取する場合、その採取は、選手のトレーニング、競技への参加、またはその他の類似の身体活動から60分以内に行ってはならないことが明確化されています。選手が選定の通知を受けた時刻の60分以内にトレーニングまたは競技を行った場合、DCOまたはその他の指定された検体採取担当者は、この60分間の経過まで当該選手を直接監視下に置かなければならない。

附属書D.3.1 c)の解説では、60分間の待機時間の一部として、選手が少なくとも10分間、足を床につけた状態で直立した静止姿勢を保つことが含まれることを明確にしている。また、アスリート・バイオロジカル・パスポートの血液学モジュールにおける分析対象とならないEDTAチューブに採取される全血サンプルについては、この60分間の待機時間が適用されないことも強調されている。

新しいWADA「採血補足報告書」テンプレートが作成され、規則第D.3.1条に基づき

c) DCOは、検体採取の60

(60) 分前に行っていたかどうかを、この書式に記録しなければならない。この情報は、検査機関に提供されなければならない。

附属書I - 血液アスリート・バイオロジカル・パスポート (ABP) 検体の採取、保存および輸送

第I.2.1条および第I.2.2条では、トレーニングまたは競技後に (ABP) の血液モジュール用の血液サンプルを提出する選手に対する待機時間が、2時間から60分に短縮されることが明確化されている。

また、ABPの血液モジュール向けに血液サンプルを提供する際に選手に尋ねられる必須質問についても、以下の通り変更が推奨される：

I.2.9 c) 検体採取日を含む今後3日以内に競技を行うかどうかを尋ねる新たな質問。

I.2.9 d) 採血の60分前 (2023年版ISTIの2時間前) に、選手がトレーニングまたは競技を行ったかどうかを尋ねる改訂された質問。

I.2.9 e) 過去4週間 (2023年版ISTIの2週間から変更) に、標高1,500メートル以上の場所でトレーニング、競技、または居住していたかどうかを尋ねる改訂された質問。

I.2.9 f) 過去4週間（2023年版ISTIの2週間から変更）の間に、低酸素テントやマスクなど、何らかの形態の高地シミュレーションを使用したかどうかを尋ねる質問が改訂された。

I.2.9 h) 採血前の直近60分間に、サウナなどの人工的な高温環境でのセッションを含め、極度の環境条件にさらされたかどうかを尋ねる質問を改訂した（2023年ISTIでは2時間であった）。

最後に、第I.2.9条では、上記の情報は、選手自身が署名する「採血補足報告書」（ABP補足報告書に代わるもの）またはその他の関連書類に記録されなければならないと規定している。